

こいぶみの前身「ひろしまる倶楽部」の表紙を飾ってくださったみなさんを、10年経過した今、再び訪れて「今」を話していただきました。

「遊び心」を大切に、 農業も人生も楽しくしよう

東区福田 山本 博子さん



2011

J A広島市福田支店前月・水・金曜日の午前7時30分から開店する「福田ふれあい朝市」は、地元の新鮮な農産物が並び、平成9年のオープン以来、20年以上地域に愛され続けている産直市。山本博子さんは朝市で売上の振込事務係も担当するなど、長年朝市を支えるメンバーの一人です。「10年前は花を中心に栽培していたけれど、いろいろな品があったほうが喜ばれるので、今は野菜が増えました」と話

す博子さん。お客さんの声に応えて種類を増やし、今では年間30品目以上を栽培するほど。「なかでもゴマの香りがする『ルッコラ』は、昔は見慣れないことから敬遠されていたけれど、今ではよく知られるようになってうれしい」と、スーパーではあまり見かけない野菜の栽培にも挑戦し、朝市では特徴や食味、おすすめの食べ方も説明しています。「今は0・5馬力なのよ」と話す博子さん。一緒に農業を営んでいたご主人がクモ膜下出血で倒れ寝たきりとなり、6年間ひとりで農業もしながら闘病生活を支えてきました。「年齢が年齢なので二人で1馬力だった」と3年前に亡くなられたご主人を振り返ります。農業以外にもご主人と近所の仲の良いご夫婦と



2021

一緒に日本全国いろいろな場所に旅行に行って過ごした時間もかけがえないものだったと思いを語る博子さん。「クヨクヨして家に籠っていても仕方ない！楽しみながら生きていかないと！」と、前を向くことができたきっかけは、家族や周りの仲間たちが声を掛けてくれたからだと言います。現在は朝市が無い土曜日には、地域のグラウンドゴルフに参加したり、日々成長する孫と接することも楽しみみのひとつで「遊ぶこと」を大切なテーマにしているそう。「農業を仕事だと思ったら大変。遊びの延長だと思えば1人での

作業も楽しく思える」と、秘訣を話す博子さん。苦勞を乗り越えた笑顔は朝市を通して地域に元氣も届けています。



▲新芽を摘み取りハウスで挿し芽をし、その後、露地に本植えするなど、手間ひま掛けて栽培している菊。



▲名前のとおりお客さんとの「ふれあい」を大切にしている朝市。「コロナ禍の外出自粛で、お客さんが減ってさびしい」と博子さん。(P10でも朝市をご紹介します)